

んでいる可能性が示唆された。Dinucleotide repeat でのピークシフトは、腫瘍組織内への正常細胞混入が避けられない検体での LOH に伴う変化とも考えられ、MSI-L 症例にこのような症例が少なからず含まれている可能性が考えられた。

【結語】BAT-26 による MSI の検索は、1 塩基のシフトに注意すれば癌部のみでも十分スクリーニングが可能であると結論した。

8. Differential secretion of cytokines and adhesion molecules by HUVEC stimulated with low concentrations of bleomycin

(低濃度ブレオマイシン刺激によるヒト臍帯静脈血管内皮細胞からのサイトカインと接着分子の分泌)

宮本 晴子

展開医科学専攻病態制御医科学講座(分子内科学)

ブレオマイシン (BLM) は肺の炎症と線維化を惹起する事が知られている。本研究は BLM の血管内皮細胞に及ぼす影響について炎症性サイトカインや接着分子の発現を検討し明らかにすることを目的とした。

BLM がヒト臍帯静脈血管内皮細胞 (HUVEC) の増殖能に及ぼす影響は、 $[^3\text{H}]$ -thymidine の細胞への取り込みにより、細胞生存率についてはトリパンブルー染色を用いた。培養上清中のサイトカイン濃度を ELISA で、接着分子、第 8 因子関連抗原の発現を免疫細胞化学的に検討し、サイトカインや接着分子の mRNA 発現は RT-PCR で評価した。

細胞増殖能や生存率への影響が比較的軽度な低濃度の BLM 刺激で、血管内皮細胞は活性化された内皮細胞の指標の第 8 因子関連抗原, IL-8, MCP-1 および E-selectin, ICAM-3 を発現し、BLM による肺線維症における炎症プロセスの病態形成に関与している事が示唆された。

第 473 回

広島大学医学集談会

(平成15年6月5日)

—学位論文抄録—

1. Expression and localization of nuclear factor-kappa B subunits in cultured human paranasal sinus mucosal cells

(培養ヒト副鼻腔粘膜細胞における NF- κ B 発現と局在)

長田 理加

展開医科学専攻病態制御医科学講座(耳鼻咽喉科学・頭頸部外科学)

アレルギー性炎症の、副鼻腔粘膜に及ぼす影響を解明することを目的に、アレルギー性鼻炎の合併の有無により① 培養ヒト副鼻腔粘膜上皮細胞における NF- κ B の発現および局在の変化、② 炎症性サイトカインの発現との関連性についての検討を行った。アレルギー合併群において、GM-CSF, IL-6, IL-8 mRNA はいずれも有意に強く発現していた。一方、NF- κ B 複合体に関しては、p50 mRNA のみがアレルギー合併群で強く発現し、p65, I κ B- α mRNA については差がみられなかった。免疫組織学的検討でも、p50 の発現はアレルギー合併群のほうが核への移行が強く細胞質での

発現も強く認められた。以上より、慢性副鼻腔炎の粘膜上皮細胞はアレルギー性炎症の影響をうけ、NF- κ Bp50 サブユニット経路を介する転写因子の増強により、炎症性サイトカイン発現を増強させ、サイトカインネットワークに関わる可能性が示唆された。

2. A leukotriene receptor antagonist, Pranlukast, suppresses eosinophil infiltration and cytokine production in human nasal mucosa of perennial allergic rhinitis.

(ロイコトリエン受容体拮抗剤プラナルカストは、通年性アレルギー性鼻炎患者の鼻粘膜の好酸球浸潤およびサイトカインの産生を抑制する)

上田 勉

展開医科学専攻病態制御医科学講座(耳鼻咽喉科学・頭頸部外科学)

アレルギー性鼻炎における Cys-LTs の作用の解明を目的として、LT 受容体拮抗剤を用い、ヒト鼻粘膜局所の浸潤細胞、サイトカインに対する Cys-LTs の及ぼす影響を検討した。LT 受容体拮抗剤内服 4 週後の臨床症状は、特に鼻閉において高い改善率を認めた。